

第2回 はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア 活性化プランフォローアップ委員会議事概要

日 時：平成24年6月1日（金） 14:00～15:30

場 所：高知市たかじょう庁舎 6階人事課会議室

出席者：はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア活性化プランフォローアップ
委員会委員

西山委員長、広末副委員長、岡内副委員長、古谷委員、木村委員、宮内委員、
早川委員、森岡委員代理、松田委員

（欠席委員：小川委員、大西委員、野原委員）

高知市

古味商工観光部長、商工観光部 山本雇用対策・中心市街地活性化担当参事 外
高知県

総務部 井奥副部長、総務部政策企画課 高橋企画監 外

1 開会

2 高知市商工観光部長、高知県総務部副部長あいさつ

3 議事

（1）東西軸エリア活性化プランの取り組み状況について

【資料3】市商工振興課説明

【資料4】県政策企画課説明

◆意見交換

【委員】

土佐経済同友会の会議でも話が出ているが、県立大学の永国寺キャンパス整備の関係で、約1,200人学生が増える。これは、中心商店街、東西軸エリアにとって魅力のある人数である。このことについて、中心商店街がどう受け皿となるか。商店街の中や、このフォローアップ委員会の中でも、ぜひ検討すべきことである。

【委員長】

高知工科大学のマネジメント学科の1学年の定員を100人増加して、経済・経営系学部として設置され、1学年200名で永国寺キャンパスに来る。さらに県立大学の文化学部の定員が増えることから、それぐらいの人数が増えるということになる。工科大学の学生は、県内出身が約3分の1で、あとは県外出身ということで、寮もあるが、近くのワンルームマンションにも住んでいる。永国寺でも大学周辺に住む人が増えてくる。住む人が増えると、買い物をする人も増えるので、中心商店街はそのことを考えておいてほしい。

【委員】

商店街の総会でも言っているが、今後、このあたりの環境は劇的に変わる。どう人の流れができてくるかであるが、民間が顧客にどう対応していくのか、我々

個店自身の自助努力が必要となってくることを認識しないといけない。図書館は、年間100万人の来館を目指すというが、1日平均2,700人にもなる。(大学の学生や図書館来館者などとなると)客層は変わってくるので、そこに向けて対応するためには、今の商店街の業種・業態のままではいけない。現在、商店街は物販中心で非常に厳しい状況にあるが、ある意味新陳代謝は当たり前のことで、これをプラスに捉え、しっかりと民間の我々として対応していかないといけない。

官民一体となって、様々な事業が東西軸で進んでいるので、これを良い方に捉えてやっていかないといけないという方向は共有している。

【委員】

はりまや橋商店街・魚の棚商店街での100円商店街の取り組みでは、100円の商品は売れるが、次につながっていかないのが課題。次回は次のお買い物につながるように、割引クーポンをつけるなどの取り組みが必要だと考えている。まさに学生が来ても、店で買ってくれるようにならないと活性化につながらない。そのためには、魅力ある商品が必要。商店同士ではなかなか言い合うことはできなので、そういう勉強会をやってもらったりすることなどが必要ではないか。100円商店街も仕組みができないと、次はない。

【委員】

てんこすについては、中心街活性化のための店舗であるので、補助金終了後もコミュニティ講座、各イベントなどの事業を継続していく。

大学と商店街をつなぐ取り組みとしては、学生にイベントに入ってもらっており、オビブラキッズタウンでは工科大学や高知大学の学生40名以上に協力してもらおうなど、商店街の活性化に参画してもらっている。今後も関係を深めていきたい。

商店街の若手で話をしているのは、中心市街地活性化の取り組みで街が賑わい、活性化してくると、他所の店が進出してくる。中心市街地活性化の取り組みにはプラスとマイナスの両面がある。それに対して、商店街はどう対応していくべきかといったことを若手でも考えている。その中で共同販促への取り組みについて考えており、7月には講師を呼んで勉強会を予定している。また、若手で東西軸でのイベントを実施する中でも、いろいろ勉強させてもらっている。

てんこすでは、8月3日から26日によさこいフェアを予定しており、よさこい祭り競演場連合会の協力を得て、過去のメダルや鳴子200種類を展示するとともに、共用地方車を展示し、観光客と一緒に写真を撮れるようにしたり、よさこい祭り関連グッズを販売することを企画している。プランの中にあっただように、よさこい祭りに関する情報発信に関して、よさこいに触れる場所といった実験的な面も持っている。プラン事業で作ったよさこいのフラフも、可能であれば貸してほしい。

【委員長】

てんこすの取り組みについては、補助のある間だけではないので尽力してほしい。応援もしていかないといけない。よさこい関係の取り組みは非常に良い取り組みである。

【委員】

競演場連合会の方とも、観光客の方によさこい祭りを10倍楽しんでいただくということをやりたいと話している。

【委員】

観光客について、団体での客は減少しており、小規模グループや家族の観光客が非常に多くなっている。そういったお客様は、事前にインターネットで調べて、飲食や観光スポットの詳細な情報を持ってきている。その上でさらに詳しいことを聞かれるが、こちらが分からないでは恥ずかしいので、弊社でも社員にしっかり対応できるように話をしている。商店街でもそういったお客様に的確に情報を与えることができれば、満足度につながり、「また来たい高知」になると思う。

ダイエー跡地、内田文昌堂の隣にマンションや商業施設が建設されるとの報道を聞き、安堵した。マンションができるということは、住民が増えるということ。このことについて商店街は力を発揮してほしい。中心街に住んでいても買い物は大変。特に働く女性は買いだめをするため、車で買い物する。商品の充実も不可欠で、商店街には頑張ってもらいたい。高知の人は同じ商品なら高知で買おうと思うので、店舗にその商品が無くてもお取り寄せが出来るなどの対応をしていくことで、1品2品と商品が売れるし、対応が良かったから、また足を運ぼうということになる。商品ありきというよりも、人で売れるというのが高知だと思う。

【委員】

てんこすの補助が終わるとするのは当たり前前の流れだと思う。その際に、てんこすの持つ意味である地産地消の拠点であり、地産外商の面でも、銀座のまると高知も踏まえた拠点としての機能を考えるべき。とさてらすの機能も含めたてんこすの機能として位置付け、ビジネスとして落とし込みをしないと上手く回らない。自助努力はしているが、仕組みとしてどう取り組んでいくかが大事だと思う。

関連して、中心商店街全体を、観光客の目線も一つの要素として全体をコーディネートする必要がある。地産地消の高知の拠点としてだけでなく、観光客誘客の拠点でもある。その観光誘客の拠点という視点で考えたときに、どんな風にどういう店を配置させるか、個別ショップの問題とも関わるが、協同組合としても強くコントロールしないと商店街の本当の魅力は生まれないと思う。努力している上に努力を重ねていくことになるかもしれないがよろしく願いたい。

【委員長】

追手前小学校西敷地について検討部会を5回開いているが、そこでの意見はどういったものが出たか。

【委員】

検討部会では、女性の立場から、子育て世代の共稼ぎ世帯が子どもを預けられる子育て支援の拠点を希望した。商店街には土日祝日にも働いている若い女性が

多いが、安心して預けられる場所がないので、土日に子どもを預けられる施設が中心部にあればと思います、そういう意見を出させてもらったが、なかなか難しいようであった。

【委員長】

土日に働く女性は商店街に多いと思う。一昨年、商工会議所女性会からも要請している。

<事務局>

検討部会は昨年5回開催し、議論いただいた。西敷地については芸術・文化の機能、子育て支援も含む市民窓口センター機能、また福祉機能など様々なご提案をいただいたが、最終的な結論にはまだ至っていない。どの機能についても、大きな施設は馴染まないのではないかとということで、図書館の多目的広場と一体となるような空間、広場と小規模な施設として検討してはどうかとご提案していただいている。

平成27年度に開館を予定している図書館の建設工事のヤードとして、西敷地の一部を活用したいので、まずは（西敷地）3,000㎡の半分を広場として整備し、色々な形で使っていけるように考えている。本格的な利用は、平成27年以降になり、その実現については、民間の力も活用していきたい。その時点までには、プロポーザル方式で、広く意見を伺いながら、内容を協議していきたい。

【委員長】

具体的な提案は出てきているのか。

<事務局>

検討部会のこれまでの提案をベースに、今後プロポーザルの準備をすすめていくことになる。

【委員】

映画「アレクサンドリア」で鳴子に似たものを、群衆が拍手・喝采や雰囲気演出のため用いるシーンがあった。ローマ帝国の当時から鳴子があったということであれば、よさこいの本場としてさらに新たな絵が描ける。

【委員】

ダイエー跡地の商業施設のテナントは、決まっているのか。

【委員長】

これからの募集になるのではないかと。

【委員】

ナイトバザールは、中心市街地活性化の取り組みで他所の商業施設が進出してくることが考えられるため、共同店舗での出店についての勉強をしていくために行った面もある。なんでも揃うような大型の店舗が進出してくると、商店街で競

合する店も出てくる。そういうことを若手もしっかり学んでいかないといけない。

商店街でもマーケティングをきちんとやって、一堂に力を合わせてやっていくことで、顧客の囲い込みや、年齢や志向などに応じたサービスの提供や、高齢者への宅配サービスといったことも考えて、商店街は迎え撃っていけるようにしないといけない。

【委員】

高齢者の方がなぜ大丸に行くのかというと、店員の皆さんが優しい言葉をかけてくれることで、充実した気分になるということだった。そうしたことを通じて大丸からDMが送られてくると、私のために招待状がとどいたと高齢者の方は考える。そういった少しのことで違ってくる。

【委員】

壱番街では、大丸のポイントデーと一緒に販促をすることを考えている。また、大丸と一緒に接客の研修を行うという話もすすんでおり、大丸側も商店街全体でセールに取り組んでいきたいと話している。

【委員】

お客様が買い物をするのは価格や場所ではない、お客様は客に無関心なところには行かない。そのため、接客は重要となる。

【委員】

接客をする側のレベルをいかに上げていくかが大事だと思う。これまで商店街は大きな話をしてきたが、こうした小さい所に問題があったりするので、そこをつぶすことに力を入れていきたい。

【委員】

あるモールに買い物に行ったとき、高齢者の方が座って休んでいるのをよく見かける。もちろん商売として成立しなければいけないが、そういう場所が商店街にも必要ではないか。

ガイド付きまち歩きモデルコースについて、地図があれば場所は分かるが、その場所に行っても説明が無いと気が付かない。見学コースであっても、行ってみても分からないということがある。案内者がいれば良いが、自分で行きたいという人もいるので、見る人が分かるようにするのも一つの方法である。

【委員長】

プランは順調に進んでおり、目標についても上向きである。27年に向けて頑張って取り組んでほしい。

(2) 今後のスケジュールについて

<事務局>

本日いただいた意見を踏まえ、本年度着実に取り組みを進めていきたい。

次回、第3回フォローアップ委員会については、2年目の取り組みの成果がとりまとめ、指標の数値が出てくる来年の今頃、4～6月頃に開催したいと考えている。

→異議なし。

【委員長】

中心市街地活性化基本計画で報告するようなことはあるか。

<事務局>

松田委員が検討委員会の委員長として参加いただくとともに、協議会には広末副委員長に参加していただいている。計画には東西軸エリア活性化プランで作りに上げた内容も取り上げている。計画素案は6月を目途にとりまとめ、改めて協議会など関連する機関に上げて、ご意見を伺ってとりまとめしていきたい。

4 閉会